

5-10 東海および伊豆地域におけるテレメータによる 水位・自噴量観測結果（1992年）（11）

The Variation of the Groundwater Level and Discharge Rate Observed by
Telemetry System in the Eastern Tokai District and Izu Peninsula,
Central Japan (1992) (11)

地質調査所
Geological Survey of Japan

前報³⁾に引続き、1992年分の東海および伊豆地域におけるテレメータによる地下水位・自噴量観測結果を報告する。また、本年より御前崎観測井における自噴量の観測結果を報告する。観測井の位置は第1図に示す。観測データは2分毎に収集・処理されているが、本報では各観測井における1992年1年間の1時間平均値を、榛原観測井で観測された気圧・降水量と共に第2図に示す。以下に観測結果の概要を述べる。

1) 榛原観測井

本観測井の水位は降雨の影響が小さく、気圧変化の影響を顕著に示し、潮汐の影響も見られる。第2図には、気圧・潮汐（理論潮汐）による補正を加えた値を示した。補正後の年間変動は地震時の変化を除けば、数cmにとどまっている。

2) 浜岡観測井

本観測井の水位は榛原観測井ほど顕著ではないが、気圧変化の影響を若干示す。降雨の影響は榛原より大きく、夏に水位上昇、冬から春にかけて低下する年収変動がある。気圧補正後の年間変動はほぼ25cm程度である。

3) 御前崎観測井

本観測井は、掘削当初は自噴せず数年後に継続的に自噴するようになった。自噴量は少量のため、地下水に含まれるガスの量により細かな変動を受けるが、主な変動は気圧変化による影響である。

4) 姫ノ湯観測井

本観測井の自噴量は、降雨の後急激に増加し、その後減少を続ける。地震に対応して自噴量の変化が見られることもあるが、降雨と重なると解析が難しい。

5) 伊東観測井

本観測井の自噴量は、潮汐の影響を明瞭に示し、過去数ヶ月の降雨履歴による影響を受ける。また、周囲の温泉利用状況にも影響を受け、1月上旬、5月上旬、8月には明瞭な自噴量の減少が見られる。

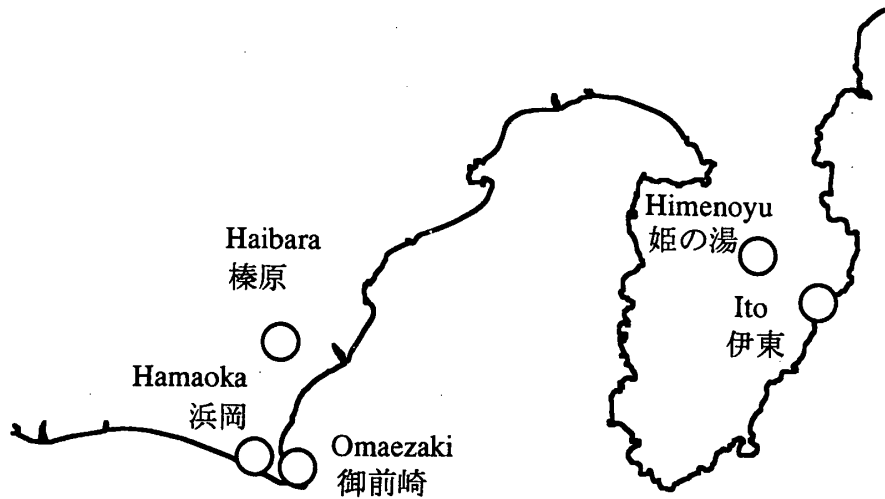
6) 地震と関連する変動

本年中には以上の観測値が変動するような、地震は発生しなかった。

（高橋 誠，松本 則夫，野田 徹郎）

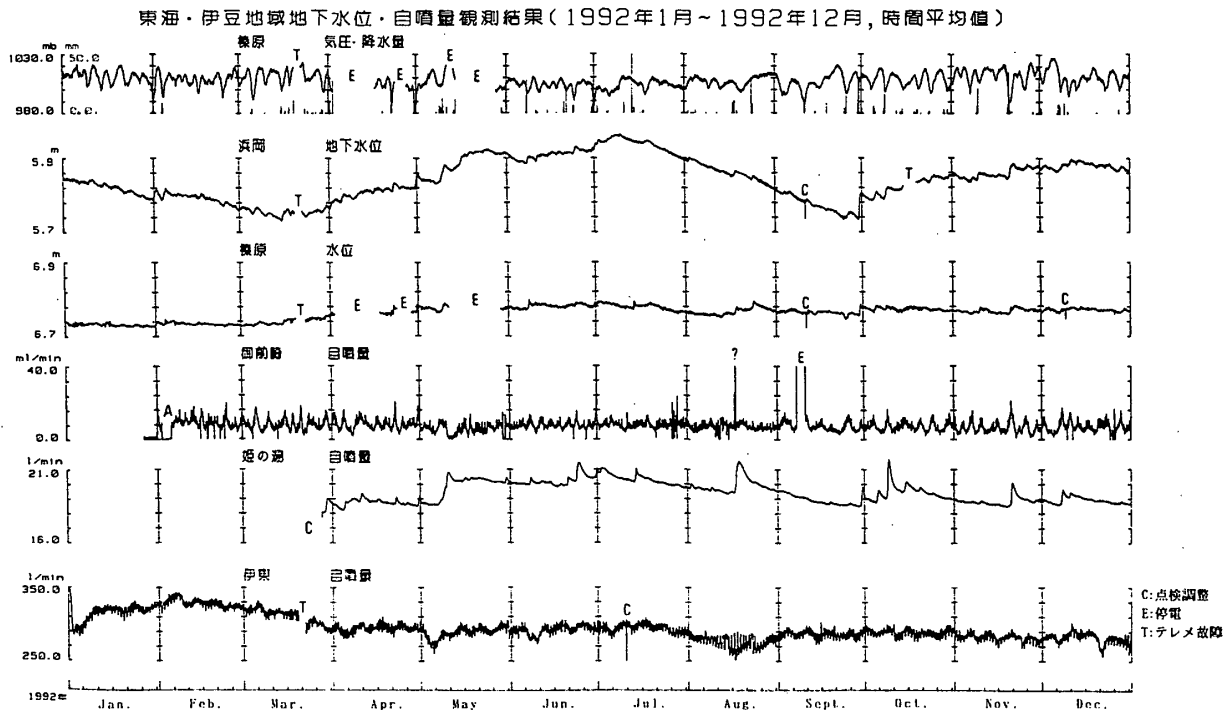
参 考 文 献

- 1) 地質調査所：東海地方東部地域におけるテレメータによる地下水位観測結果（1991年）（10），
連絡会報，48（1992），366-369.



第1図 東海・伊豆地域地下水位・自噴量観測井位置

Fig.1 Locality of the groundwater observation sites.



第2図 東海・伊豆地域地下水位・自噴量観測結果(1992年)(1時間平均値)

C: 点検調整 E: 停電 T: テレメータ故障

Fig.2 Variation of the groundwater level and discharge rate at five observation sites in 1992.

C: maintenance

E: electric power failure

T: telemeter system failure